

2014 年度

授業についての 満足度調査

ASSESSMENT OF STUDENT SATISFACTION

The Student Satisfaction Survey is a tool to improve the quality of students life and their learning through measurement of their satisfaction with courses they have taken.

Shijonawate Gakuen Junior College

「授業についての満足度調査」について

2014 年度の「授業についての満足度調査」は例年と同じく年初 1 月に保育学科、ライフデザイン総合学科、および総合福祉コース1、2 年次生を対象に実施した。調査手段は主に携帯電話、補完的に学内のパソコンとした。調査結果についても、2010 年度～2013 年度と同じ体裁でとりまとめを行った。

従来通り3 年度分のデータを比較する方式としているが、本年度は2012 年度、2013 年度、2014 年度入学生のデータを掲載し、入学年度別での比較、また同一入学年度でも1 年次と2 年次間の比較が行えるようにしている。繰り返しとはなるが、本満足度調査は個々の授業毎の満足度を調査するものではなく、学科・コース毎に授業全体についての満足度を調査するもので、これと合わせて「自分自身についての授業取り組みについての自己評価」、「学習成果についての自己評価」も調査対象とし、最終的に学生生活全体に関する満足度も問う形としている。

2010 年度から始めた視覚的に結果を把握できるグラフ方式を踏襲し、上記の 3 項目ごとに FD 委員会のコメントを付し、その上で各学科長・コース長のコメントを掲載しているので、本報告書を是非ご一読頂きたい。尚、昨年度に引き続き、本満足度調査への学生の回答状況(回答率)の推移表を参考までに本報告書の末尾に掲載しているので併せご覧頂きたい。

また、調査結果については、費用や手間も勘案し、冊子の配布に替えてファイル形式での配信 (UNIPA での掲示)とさせて頂くこととした。悪しからずご了承頂きたい。

FD 委員長
奥田 純

保育学科 満足度調査結果

保育学科 満足度調査結果		2014 年度 入学生	2013 年度 入学生	2012 年度 入学生			
		1年次	1年次	2年次	1年次	2年次	
調査対象者数							
項目番号	本学での授業に関する各項目について、あなたの満足度をお答え下さい。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	2014年度	2013年度	2014年度	2012年度	2013年度	
1	授業内容のわかりやすさ	3.34	3.27	4.04	3.32	3.46	
2	授業の質(短大生として満足できる内容であったか)	3.29	3.40	4.02	3.34	3.59	
3	教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など)	3.48	3.40	4.09	3.44	3.80	
4	授業の人為的環境(迷惑な授業態度や私語への注意・座席への配慮など)	3.18	3.35	3.79	3.01	3.18	
5	授業の物理的環境(教室のサイズ・施設・設備の充実度など)	3.08	3.47	3.89	3.31	3.66	
6	将来のキャリア(就職など)計画に対する授業内容の有効性	3.47	3.58	3.96	3.44	3.79	
7	教育課程(カリキュラム)の充実度(受講したい授業科目が多く開講されているか)	3.44	3.31	4.02	3.48	3.63	
平均		3.33	3.40	3.97	3.34	3.59	
項目番号	本学での授業への取り組みについてあなた自身を自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)	2014年度	2013年度	2014年度	2012年度	2013年度	
1	授業には、よく出席した	3.87	3.64	4.04	4.18	3.84	
2	授業には遅刻しないように気をつけた	4.32	4.07	3.98	4.39	4.21	
3	授業中は居眠りや私語などせず、授業に集中した	3.53	3.35	3.91	3.26	3.57	
4	授業時間外の課題には真剣に取り組んだ	3.87	3.84	4.13	3.68	3.84	
5	試験勉強には真剣に取り組んだ	3.81	3.82	4.09	3.94	3.77	
平均		3.88	3.74	4.03	3.89	3.85	
項目番号	あなたは、本学での2年間でどの程度の学習成果が身についたと思いますか。自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)	2014年度	2013年度	2014年度	2012年度	2013年度	
1	教養や知性が身についたと思いますか	3.50	3.51	3.98	3.53	3.77	
2	専門的能力(資格取得を含む)が身についたと思いますか	3.66	3.69	4.04	3.65	3.79	
3	社会人(コミュニケーション力、マナーなど)が身についたと思いますか	3.66	3.73	3.98	3.68	3.91	
4	人間的にも成長できたと思いますか	3.76	3.80	4.11	3.74	3.91	
平均		3.65	3.68	4.03	3.65	3.84	
項目番号	あなたは本学での学生生活を総合的に判断して、どれくらい満足していますか。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	2014年度	2013年度	2014年度	2012年度	2013年度	
1	総合的判断	3.24	3.36	4.21	3.35	3.73	

数値は各項目とも平均値。

学科長のコメント

(満足度調査の結果と今後の改善について)

1. 本学での授業に関する満足度
7項目を俯瞰すれば、全項目にわたり、1年次と比較して2年次が全て数値が上昇している。とくに2013年度生は、1年次と2年次の数値が7項目の平均で、「0.57」ポイントも上昇している。項目別では、「#1「授業内容のわかりやすさ」」は「0.77」、次いで「#7「教育課程の充実度」」は「0.71」と及び「#3「教員とのコミュニケーション」」は「0.69」の伸びを見せていている。授業担当者としては、この3項目が伸びていることについては、それぞれ担当者の努力の証であるといえる。

全項目全てについて、満足度は上がったものの、これに満足すべきではない。やはり、項目のなかで、評価が最も低いのが、「#4の「授業の人為的環境」」である。確かに2012年度、2013年度入学生は全項目が1年次より上回っているが、7項目のなかで評価が最も低いのが「#4の「授業の人為的環境」」である。とりわけ2012年度生の評価は「3.18」と7項目中最低であり、かつ、1年次の伸びも「0.17」と非常に低い伸びとなっている。これは授業担当者としては、最も留意しなければならない項目であると考えている。学習意欲を削ぐ様な私語等の行為について、毅然とした態度で対処しなければならない。

2. 授業への取り組み姿勢に対する自己評価

学生個々人の評価であるが、一般的に徐々に授業進行に伴い、学習意欲等が比例して向上していくのが本来の姿と思われるが、2012年度生には、5項目平均で、1年次より2年次の評価が下がってしまう結果であった。なかでも、「#1「授業出席」」、「#2「授業に遅刻しない」」及び「#5「試験勉強には真剣」」の3項目がレベルダウンしている。2年間の全授業のほとんどが資格・免許取得に必要な「必修科目」と位置付けられているため、学習意欲を持続する動機や、継続して学ぼうとする興味のもたせ方について、授業担当者は常に創意と工夫を有さなければならない。

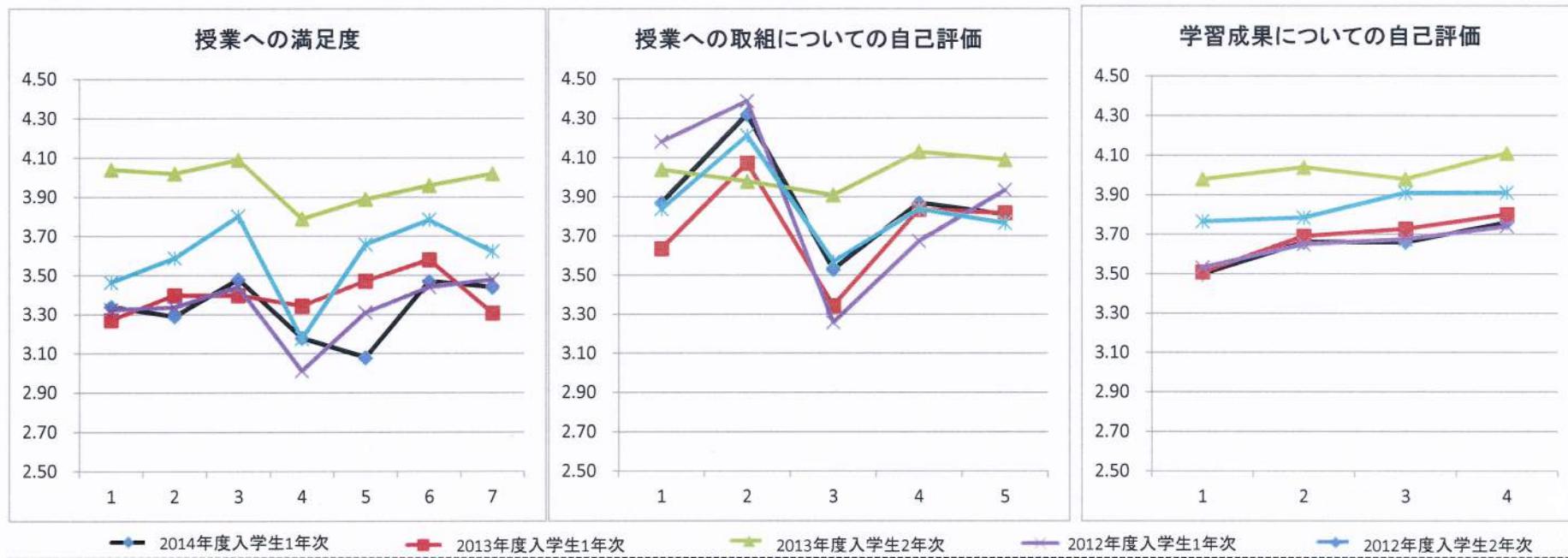
さらに、2013年度生から公共交通機関の延着証明がない限り、一切の「遅刻」は認めないとなったが、2年次の評価が、この項目のみ下がってしまっているのは見逃せない。寝坊など私的な理由を払拭するために取り入れた規定だが、2年次になりその意図が薄れてきているのかも知れない。今しばらく状況を静観しつつ、適宜対応していくねばならない。

3. 学習成果に対する自己評価

学修成果への問い合わせに対しては、授業項目と同様に、2012年度、2013年度入学生の全項目に対する満足度評価が上昇している。保育士・幼稚園教諭としての専門職を目指して取り組んだ2年間に「#1の「教養や知性」」及び「#2の「専門的能力」」が身に付いたと自覚しているようで、学生なりに一定の自信がついたのではないかと思える。ただし、満足度の数値は決して高くはないので、今後さらに満足度を上げる取り組みを心掛けなければならない。

4. 学生生活に関する総合的判断

両入学年度とも、1年次より2年次の数値が上回っており、伸び率も他ジャンルの平均伸び率より高い数値となっている。だが、これも満足度の数値 자체はまだ向上させる余地が十二分にあるため、さらに高い満足度を感じられるように努力を惜しんではならないといえる。



・2013年度生は1年次と比べ2年次にすべての項目で満足度が大幅に上がっている。
 ・1年次より2年次にかけて満足度が向上しているのは2012年度生で顕著に見られたが、2013年度生については上昇幅は2012年度生よりも大きかった。
 ・2014年度生は2012年度生1年次と似通った満足度を示しているが、#5(授業の物理的環境)の満足度についてはこの3年間で一番低い評価となっている。

・2013年度生は2年次になって#2(遅刻)以外の項目で自己評価が向上、特に#3(授業への集中)の向上が顕著である。
 ・2014年度生は2013年度生1年次との比較では#1(出席)、#2(遅刻)、#3(授業への集中)に関する自己評価が高い。#4(時間外の課題)、#5(試験勉強)についてはほぼ同じ評価となっている。

・学習成果についての自己評価は左記の授業への満足度、授業への自己の取り組みというカテゴリに比べて、項目間の差が小さく、総じて評価が高いのが大きな特徴でこの傾向は変わっていない。
 ・2013年度生は2012年度生と同じく、すべての項目で2年次の方が1年次より学習成果についての自己評価が上がった。上昇幅は2013年度生の方が大きかった。
 ・2014年度生は、2012年度生、2013年度生1年次とほぼ同水準の結果となっている。

総合的判断

・2013年度生は1年次から2年次になって評価が3.36から4.21へと大幅に上昇した。この傾向は近時比較的顕著に見られるが、2013年度生の上昇幅は極めて大きかった。2014年度生の総合評価は3.24で2012年度生、2013年度生1年次の水準を若干下回った。

調査対象者数		2014 年度 入学生	2013 年度 入学生	2012 年度 入学生			
項目番号	実施時期	1年次	1年次	2年次	1年次	2年次	
1	授業内容のわかりやすさ	3.71	3.45	3.37	3.48	3.77	
2	授業の質(短大生として満足できる内容であったか)	3.60	3.39	3.27	3.48	3.85	
3	教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など)	3.52	3.42	3.37	3.48	3.81	
4	授業の人の為的環境(迷惑な授業態度や私語への注意・座席への配慮など)	3.33	3.39	3.07	3.40	3.73	
5	授業の物理的環境(教室のサイズ・施設・設備の充実度など)	3.38	2.87	2.93	3.10	3.50	
6	将来のキャリア(就職など)計画に対する授業内容の有効性	3.40	3.48	3.07	3.18	3.69	
7	教育課程(カリキュラム)の充実度(受講したい授業科目が多く開講されているか)	3.44	3.19	3.57	3.55	3.50	
平均		3.48	3.31	3.24	3.38	3.69	
項目番号	本学での授業への取り組みについてあなた自身を自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)	実施時期	2014年度	2013年度	2014年度	2012年度	2013年度
1	授業には、よく出席した	3.83	3.77	3.87	3.78	3.62	
2	授業には遅刻しないように気をつけた	4.10	4.06	4.03	4.03	4.00	
3	授業中は居眠りや私語などせず、授業に集中した	3.69	3.65	3.83	3.58	3.65	
4	授業時間外の課題には真剣に取り組んだ	3.77	3.84	3.53	3.43	3.58	
5	試験勉強には真剣に取り組んだ	3.75	3.74	3.60	3.45	3.73	
平均		3.83	3.81	3.77	3.65	4.10	
項目番号	あなたは、本学での2年間でどの程度の学習成果が身についたと思いますか。自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)	実施時期	2014年度	2013年度	2014年度	2012年度	2013年度
1	教養や知性が身についたと思いますか	3.63	3.52	3.70	3.35	3.85	
2	専門的能力(資格取得を含む)が身についたと思いますか	3.44	3.71	3.57	3.55	3.73	
3	社会人(コミュニケーション力、マナーなど)が身についたと思いますか	3.54	3.52	3.27	3.60	3.54	
4	人間的にも成長できたと思いますか	3.60	3.45	3.57	3.45	3.62	
平均		3.55	3.55	3.53	3.49	3.68	
項目番号	あなたは本学での学生生活を総合的に判断して、どれくらい満足していますか。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)	実施時期	2014年度	2013年度	2014年度	2012年度	2013年度
1	総合的判断	3.40	3.45	3.20	3.48	3.62	

数値は各項目とも平均値。

学科長のコメント (満足度調査の結果と今後の改善について)

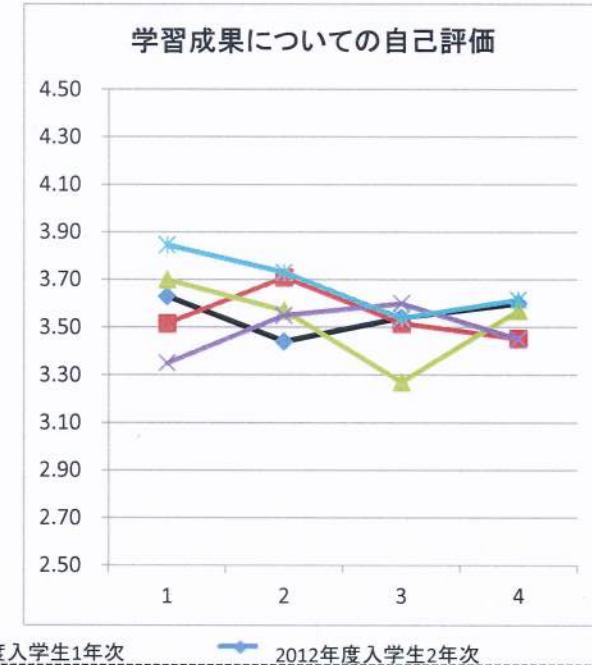
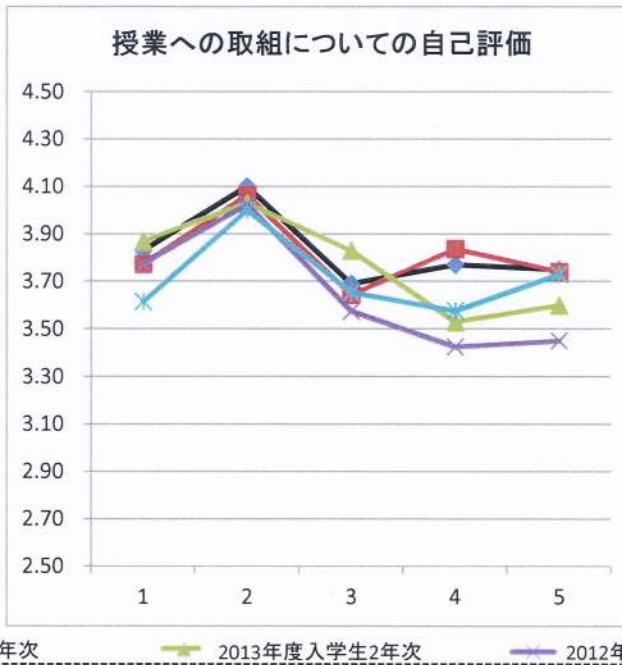
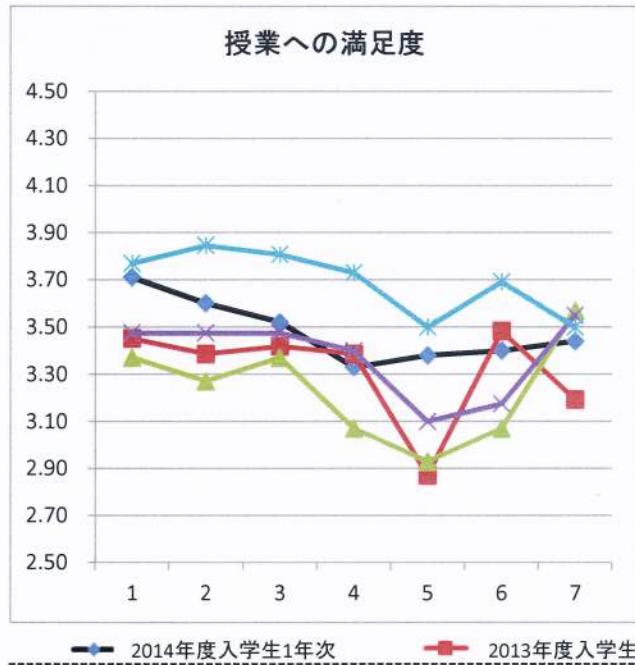
◆「授業への満足度」
本年度の特徴は2013年度入学生の満足度が「教育カリキュラムの充実度」を除いて1年次より2年次の方が低下したことである。2012年度生は1年次から2年次にかけて逆に上昇傾向にあったので落差が激しく感じられる。殊に「将来のキャリア計画に対する授業内容の有効性」での低下が懸念材料で、キャリア系の授業、あるいはカリキュラム外での就職支援を2年次になってどのように進めるか検討を要する。一方、「2014年度入学生は2013年度生1年次より若干満足度が高いが、「授業の物理的環境」については例年に比べて不満が少なく、この年度生の特徴とも思える。

◆「授業への取組についての自己評価」
出席、遅刻、授業中の態度についてはどの入学年度も同じ傾向が見られるが、2013年度生は2年次になって「授業時間外の課題」「試験勉強への取組」に関して自己評価が低下している点、授業への満足度の低下と連動している可能性がある。2014年度生は2013年度生1年次と似通った結果であり、2年次になってからの学習意欲の持続について注意を払う必要がある。

◆「学習成果についての自己評価」
2013年度生2年次生の「専門的知識」に関する評価低下はあるものの、「授業への満足度」の「教育課程の充実度」の評価点と同一である。一方、「社会人」はキャリア関連の内容と位置付けると、「授業への満足度」で示されたキャリア関連授業内容についての満足度低下と呼応している。2014年度生については、2012年度生、2013年度生の1年次と大きな違いは見出せず、例年通りと言える。

◆「総合的判断」
2013年度生2年次が全体的に学生生活を振り返っても、前後の入学年度生に比べ満足度が低下していることが顕著であり、この年度生は卒業していくが、この原因についての考察が必要である。

◆「今後の改善について」
本年度の特徴はキャリア教育フィールド新設後最初の入学年度生となった2013年度生が2年次になってキャリア関連の授業やそこで培われる成果に関して自己評価も厳しかったことである。ライフデザインの特徴であるカリキュラムの自由選択制度下で、2年次になつて資格取得と就活への熱意を向上させる具体策を考案し実行することが大きな課題である。2014年度生については授業の物理的環境への不満足度はさほど大きくなないように見えるが、校舎や諸設備の老朽化への対応は今後も望みたい。



- ・2013年度生は2年次になって#7(カリキュラムの充実)を除き他のすべての項目で満足度が下降した。これは2012年度生と全く反対の現象である。
- ・2014年度生は2013年度生1年次より満足度が全般的に上昇している。例年満足度が低い#5(授業の物理的環境)での上昇が際立っている。#6(キャリアへの有効性)は2013年度生1年次と同じ水準で比較的高い数字を示した。

- ・2013年度生2年次は1年次に比べて#4(時間外の課題)、#5(試験勉強)での自己評価が低下している。
- ・2014年度生は自己評価に関しては2013年度生1年次とすべての項目について、ほぼ同水準の結果となっている。

- ・2013年度生は2年次になって教養・知性面、また人間的な成長について評価は向上している一方、専門的な知識、コミュニケーションやマナーについての評価が低下している。
- ・2014年度生は2013年度、2012年度1年次生と比べて、#2(専門的能力が身に着いた)以外は評価が比較的高くなっている。

総合的判断

- ・2013年度生は総合的な満足度で2年次は1年次より3.45から3.20へと低下し、従来2年次になると満足度が向上する傾向を覆すものである。2014年度生については満足度は2013年度生1年次を若干下回る3.40という水準であった。

「総合福祉コース」満足度調査結果		2014 年度 入学生	2013 年度 入学生	2012 年度 入学生		
項目番号	実施時期	1年次	1年次	2年次	1年次	2年次
調査対象者数		14	12	16	20	18
項目番号 本学での授業に関する各項目について、あなたの満足度をお答え下さい。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)						
1 授業内容のわかりやすさ	2014年度	3.71	4.25	4.31	3.55	3.89
2 授業の質(短大生として満足できる内容であったか)	2013年度	3.71	4.08	4.19	3.30	4.00
3 教員とのコミュニケーション(質問への応答、学習や課題への助言など)	2014年度	3.57	4.33	3.94	3.60	4.06
4 授業の人為的環境(迷惑な授業態度や私語への注意・座席への配慮など)	2012年度	3.86	4.17	4.13	3.10	3.89
5 授業の物理的環境(教室のサイズ・施設・設備の充実度など)	2013年度	3.86	4.17	4.13	3.40	3.78
6 将来のキャリア(就職など)計画に対する授業内容の有効性	2014年度	4.00	4.25	4.13	3.60	3.94
7 教育課程(カリキュラム)の充実度(受講したい授業科目が多く開講されているか)	2013年度	3.93	4.25	4.19	3.20	3.78
平均		3.81	4.21	4.15	3.39	3.90
項目番号 本学での授業への取り組みについてあなた自身を自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)						
1 授業には、よく出席した	2014年度	4.14	4.25	4.19	4.00	4.06
2 授業には遅刻しないように気をつけた	2013年度	4.29	4.33	4.31	4.20	4.22
3 授業中は居眠りや私語などせず、授業に集中した	2014年度	3.71	3.75	3.75	3.75	3.83
4 授業時間外の課題には真剣に取り組んだ	2012年度	3.79	3.92	3.75	3.80	3.89
5 試験勉強には真剣に取り組んだ	2013年度	3.79	4.17	3.56	3.75	4.28
平均		3.94	4.08	3.91	3.90	4.06
項目番号 あなたは、本学での2年間でどの程度の学習成果が身についたと思いますか。自己評価してください。 (5:そう思う 4: ややそう思う 3:どちらともいえない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)						
1 教養や知性が身についたと思いますか	2014年度	3.57	3.83	3.94	3.55	3.89
2 専門的能力(資格取得を含む)が身についたと思いますか	2013年度	4.00	4.00	4.25	3.75	4.11
3 社会人力(コミュニケーション力、マナーなど)が身についたと思いますか	2014年度	3.64	3.58	3.69	3.50	4.17
4 人間的にも成長できただと思いますか	2012年度	3.71	3.75	4.00	3.55	4.00
平均	2013年度	3.73	3.79	3.97	3.59	4.04
項目番号 あなたは本学での学生生活を総合的に判断して、どれくらい満足していますか。 (5:満足 4:やや満足 3:どちらともいえない 2:やや不満 1:不満)						
1 総合的判断	2014年度	3.64	4.08	4.06	4.00	4.00

数値は各項目とも平均値。

コース長のコメント (満足度調査の結果と今後の改善について)

(授業に関する満足度)

・2013年度生は1年次から全項目において満足度が高く(4.1～4.3のバンド内)、高水準だった2012年度生の2年次よりさらに高い満足度を示していた。今年は、教員とのコミュニケーションが3.94に下降したものの、昨年同様、平均値で4.15という高い満足度となつた。今年の数値では、授業のわかりやすさに対する値が最高点の4.31で昨年より上昇。今年は、本調査の回答数自体が増え、90%近くとなっていることから、今年の水準が実態を反映している数字と判断できる。

・2014年度生は、2013年度生の1年次の値には及ばないものの2012年度生の1年次との比較では、高い水準が得られている。本調査の回答率が在籍数の100%であることから、教員とのコミュニケーションに対する数値が一番低い3.57と出たことは反省材料として受け止めたい。学業への意欲を向上させるためにも、教員として学生の学力・気質に応じた関わりをもつるようにしていきたい。

(授業に対する学生の自己評価)

・2013年度入学生の自己評価は、1年次の水準を若干下回った。特に、試験勉強に真剣に取り組んだが1年次に比し0.6ポイントも低くなってしまっており、2年次後期配当の授業科目数の少なさ(期末試験の数も少ない)と関連しているのではないだろうか。この結果を踏まえ次年度には改善を求みたい。

・2014年度生の自己評価は、2012年度生の1年次の自己評価に近い。高い数値は、遅刻しない・休まないように気をつけたに対する値であり、出席率向上に最も努力していることがわかる。反面、授業態度に関しては低く自己評価しており、授業態度不良学生の成績が低い点を念頭に入れて日常の指導に生かしていくたい。

(学習成果に対する自己評価)

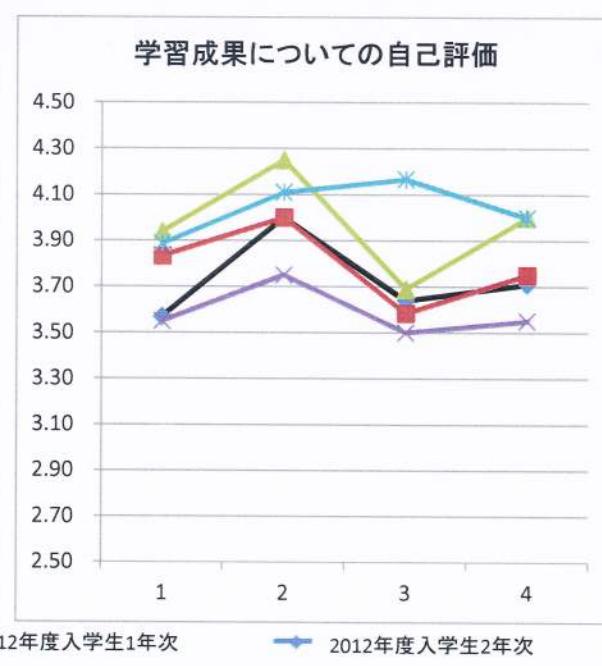
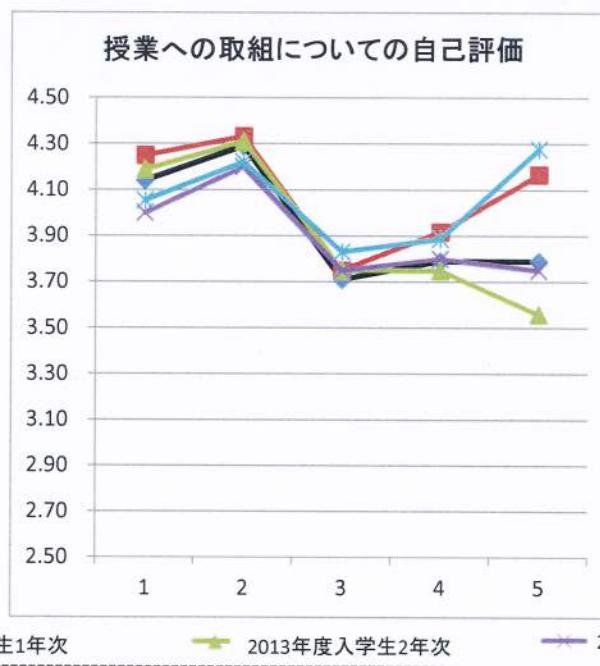
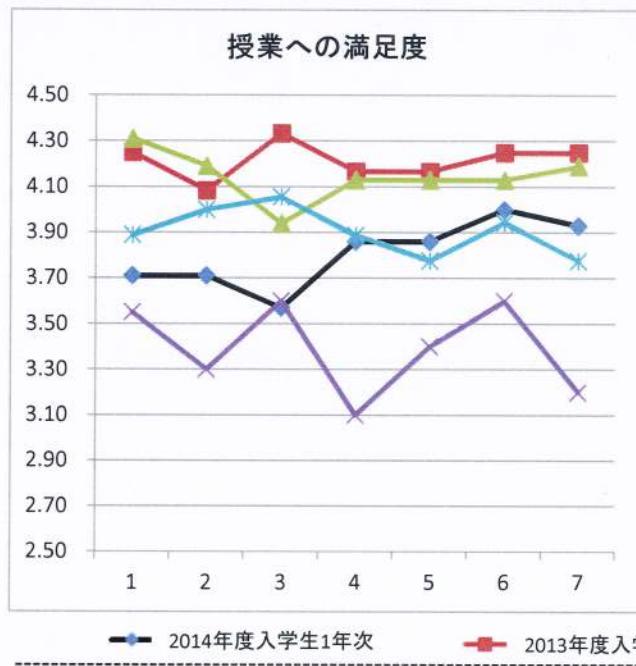
・2013年度入学生は、全項目において1年次に比し2年次の値が上昇した。教養科目から専門知識、社会人材、人間的な成長まで全項目で学習成果が得られたと答え、満足度が高くなつたが、2012年度生の上昇率と比較すると、伸びは低かった。

・2014年度入学生については、在学1年を経過したところであり、学びの中盤であることから、専門知識についてはかなり高い評価をしているものの、社会人材、人間的な成長を自覚するには至らず、これまでの年度生の平均的な評価に近い。今後、授業や学外実習体験を重ねる中で、学習成果満足度が上昇するよう指導しなければならない。

(総合評価)

・総合的には2013年度入学生は1年次4.08と2年次4.06という高水準で、変化がなかった。

・2014年度生の総合評価は3.64と低い傾向にある。上記の授業への評価や学習成果へのカテゴリー別の評価値に比べると若干低い満足度となつた。



- ・2013年度生は1年次のときから満足度の高いことが特徴的であったが、2年次でも満足度が持続している。唯一、#3(教員とのコミュニケーション)が低下した。
- ・2014年度生は2013年度生1年次と比べると満足度はかなり低下したが、2012年度生1年次との比較では十分に高い水準と言える。

- ・2013年度生は、自己評価の点では1年次から2年次になってもほぼ同水準であったが、#5(試験勉強への取り組み)が大幅に下落した。
- ・2014年度生は2012年度生1年次の自己評価とほぼ同じ評価を示している。2013年度生1年次との比較では#5がかなり低い評価を示しているが、これは2013年度生1年次の評価が通常より高いことに起因していると思われる。

- ・2013年度生は1年次から2年次になって自己評価の向上が見られる。ただし、#3(社会人力量)については自己評価が1年次と変わらず相対的に低い水準となっている。
- ・2014年度生は教養については2013年度生1年次と比べ低い評価であるが、その他の項目についてはほぼ同水準である。

総合的判断

・総合的には2013年度生は1年次と2年次とでほぼ同水準の4.00を若干超える水準であった。2014年度生は総合評価は3.64で2012年度生、2013年度生1年次を下回っている。ただ、2012年度生1年次については、カテゴリー別の評価では2014年度生を下回っているにもかかわらず、総合評価では4.00とやや説明しにくい結果である。

満足度調査回答状況

学科・コース	入学年度	入学者数	調査時期(各年度1月)									
			2010年度		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度	
			回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率	回答者数	回答率
保育	2009	94	74	78.7%								
	2010	85	68	80.0%	62	72.9%						
	2011	98			44	44.9%	41	41.8%				
	2012	122					77	63.1%	56	45.9%		
	2013	99							55	55.6%	47	47.5%
	2014	114									62	54.4%
ライフ	2009	102	64	62.7%								
	2010	107	79	73.8%	34	31.8%						
	2011	92			59	64.1%	41	44.6%				
	2012	71					40	56.3%	26	36.6%		
	2013	55							31	56.4%	30	54.5%
	2014	82									48	58.5%
介護・「総合福祉」	2009	16	14	87.5%								
	2010	33	28	84.8%	18	54.5%						
	2011	21			18	85.7%	15	71.4%				
	2012	25					20	80.0%	18	72.0%		
	2013	18							12	66.7%	16	88.9%
	2014	18									14	77.8%

注:回答率は入学年度ごとに調査年度の回答者数を当初の入学者数(調査時期の在学者数は用いていない)で割り百分率としている。

介護・「総合福祉」については、2011年度までの入学生は介護学科、2012年度からの入学生は「総合福祉」コースに属す。

2014 年度 授業についての満足度調査

©2015 年 3 月

編集 四條畷学園短期大学 FD 委員会
委員長 奥田純
委員 石川肇 鍛治谷静 北村瑞穂